

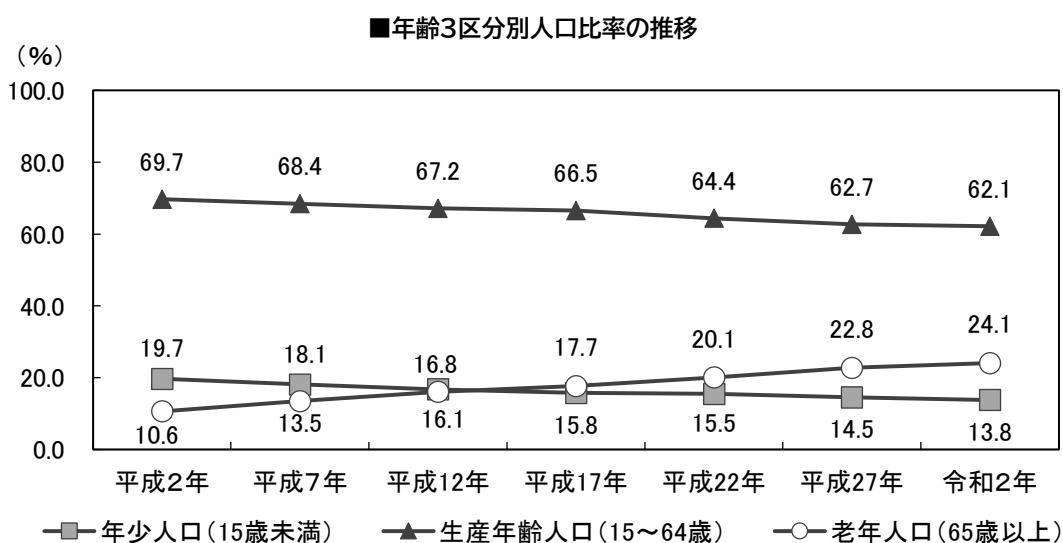
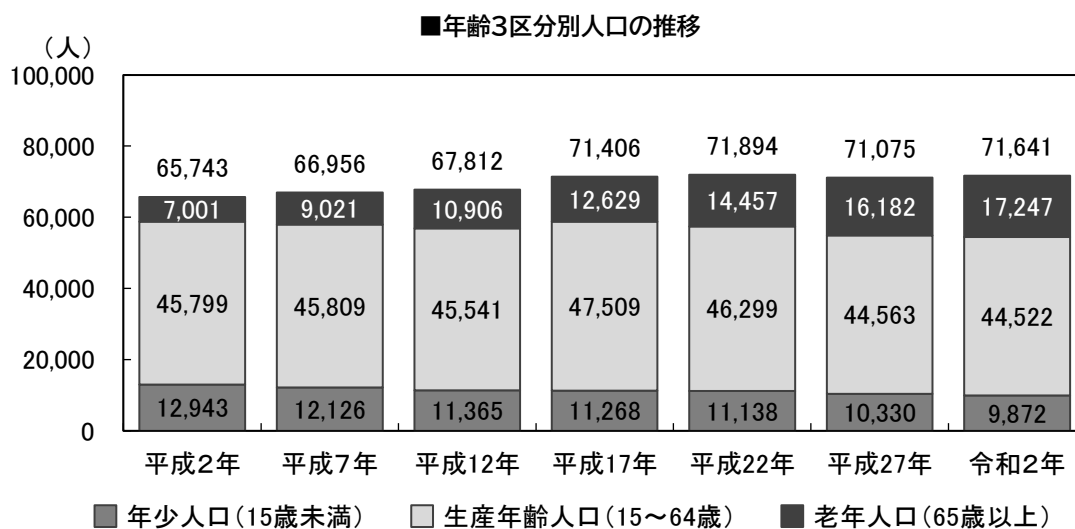
第2章 碧南市の現状

1 統計データに基づく碧南市の状況

(1)人口等の状況

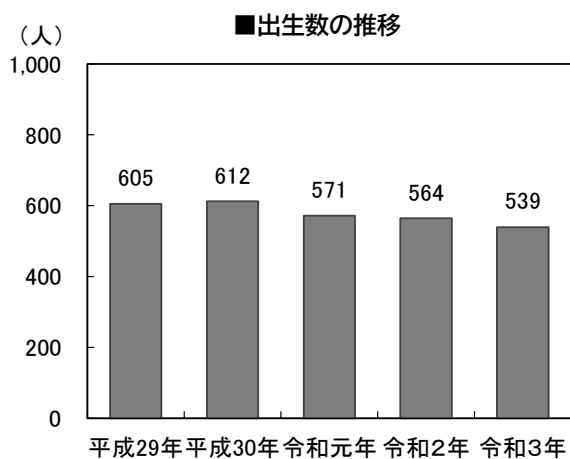
本市の総人口は、平成22年まで増加傾向にありましたが、その後は減少、増加と変動しています。年少人口・生産年齢人口は減少している一方で、老年人口は増加を続けています。

また、年齢3区分別の人口比率でみると、平成17年に老年人口の割合が年少人口の割合を上回り、令和2年には高齢化率は24.1%と、約4人に1人が65歳以上の高齢者となっています。

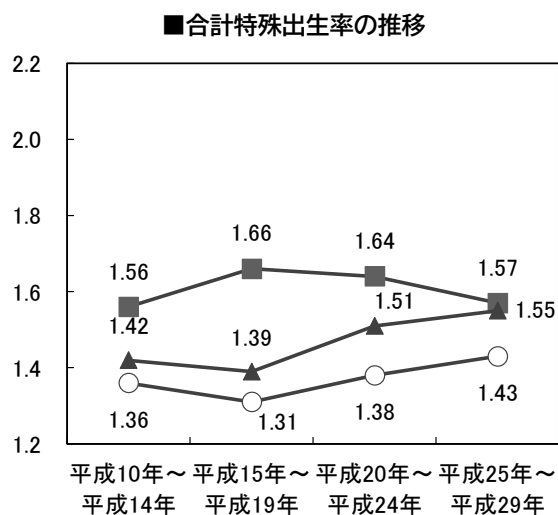


本市の出生数は緩やかに減少傾向にあります。合計特殊出生率をみると、平成15～19年で増加した後はわずかに減少に転じており、愛知県や全国より高い数値で推移しています。

また、人口ピラミッドでみると男女ともに45～49歳が最も多く、0～64歳までは男性が女性より多く、75歳以上では女性が男性より多くなっています。

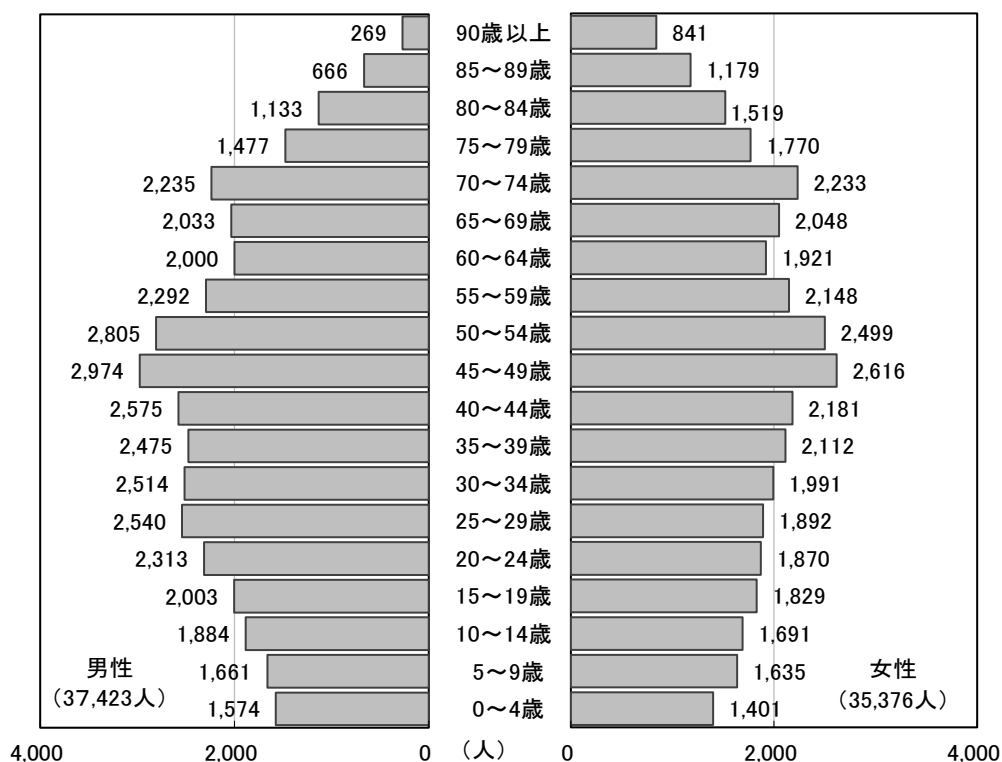


資料:碧南の統計



資料:人口動態統計特殊報告(全国、愛知県、碧南市)

■碧南市の人口ピラミッド(令和3年9月30日時点)

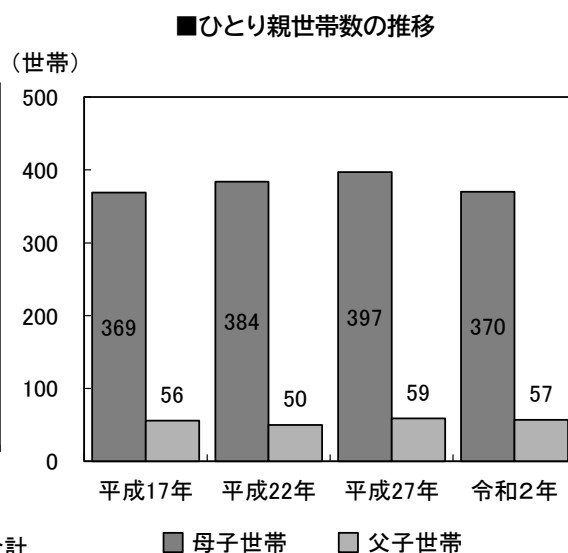
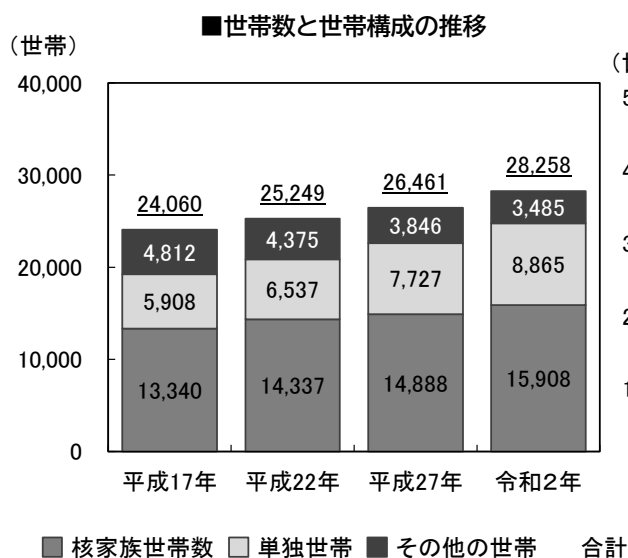


※年齢不詳人口は除く
資料:碧南の統計

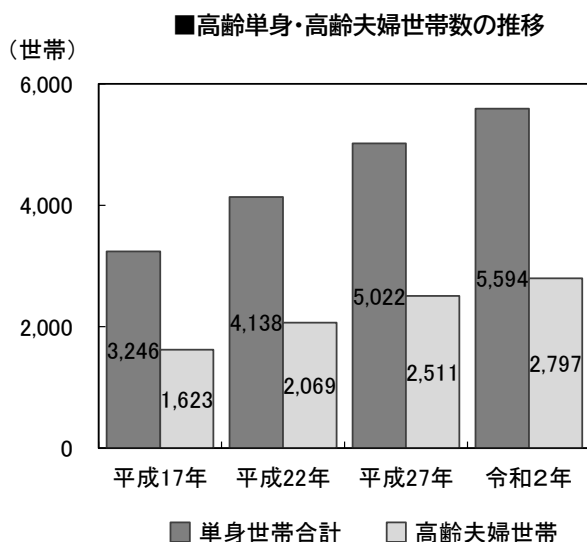
(2)世帯の状況

本市の世帯数は継続して増加していますが、世帯構成の推移で見ると核家族や単独の世帯が増加しており、世帯の小規模化が進んでいます。ひとり親世帯はほぼ横ばいで推移していますが、圧倒的に母子世帯が多い状況です。

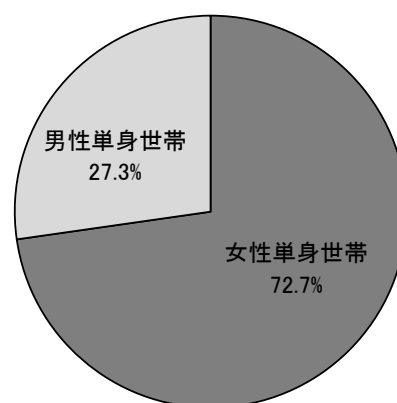
また、高齢（65歳以上）単身世帯・高齢夫婦世帯数は継続して増加しており、高齢単身世帯の男女比をみると女性が約7割を占めています。



資料：国勢調査



■高齢単身世帯の男女比(令和2年)

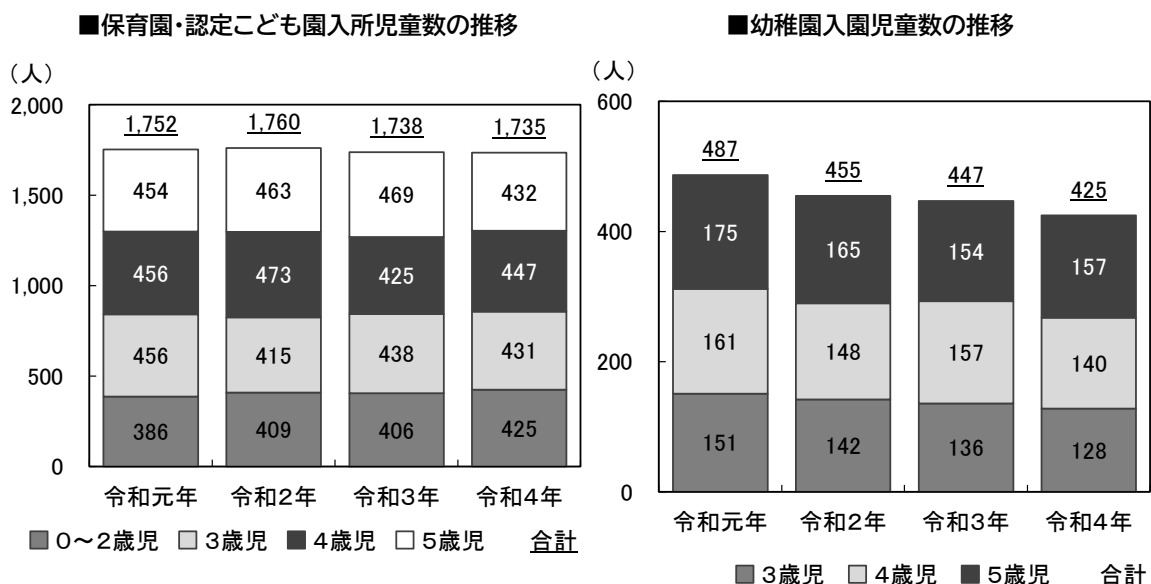


資料：国勢調査

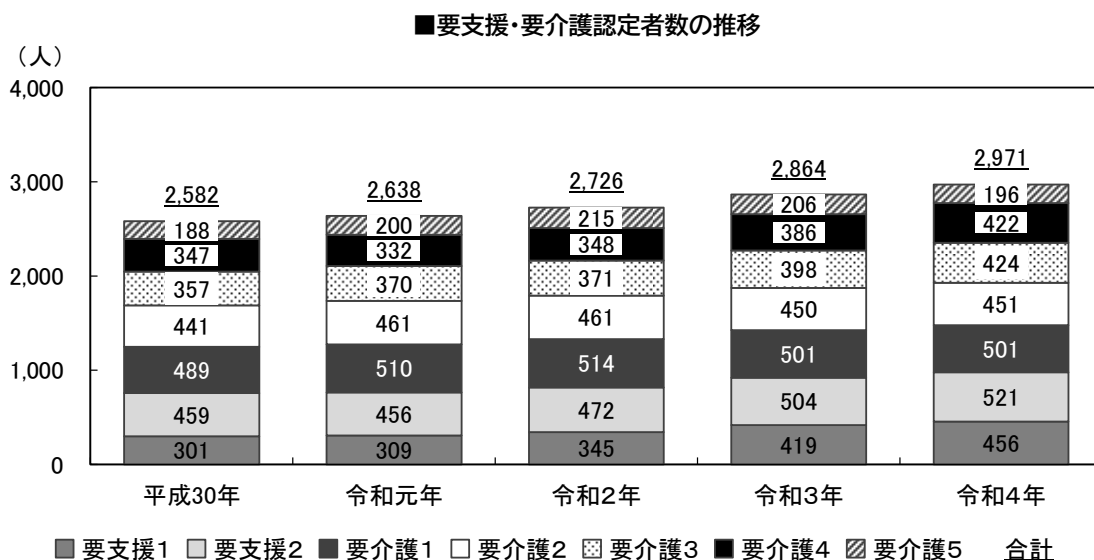
(3)家庭生活・職業生活の状況

碧南市内には公立保育園が5か所、私立保育園が8か所、認定こども園が3か所あり、近年の入所児童数はほぼ横ばいで推移しています。公立幼稚園は5か所あり、令和元年以降の入園児童数はやや減少傾向にあります。

また、要支援・要介護認定者は継続して増加しています。



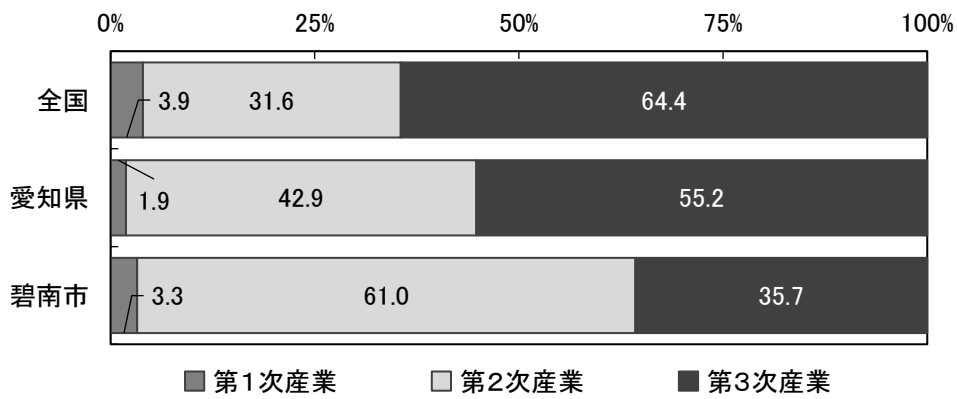
資料:碧南の統計



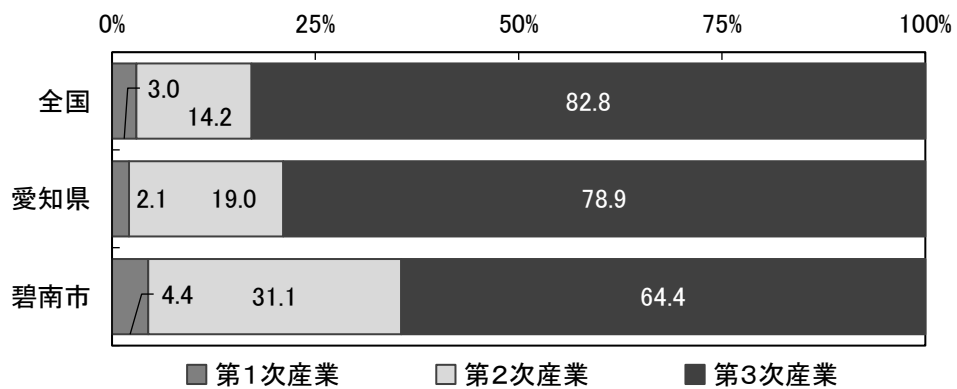
資料:碧南の統計

産業分類別の状況をみると、男女ともに全国、愛知県に比べて第2次産業の割合が高いことが本市の特徴となっています。性別で比較すると、男性に比べて女性は第3次産業に従事する割合が高くなっています。

■産業分類別就業者数(男性)



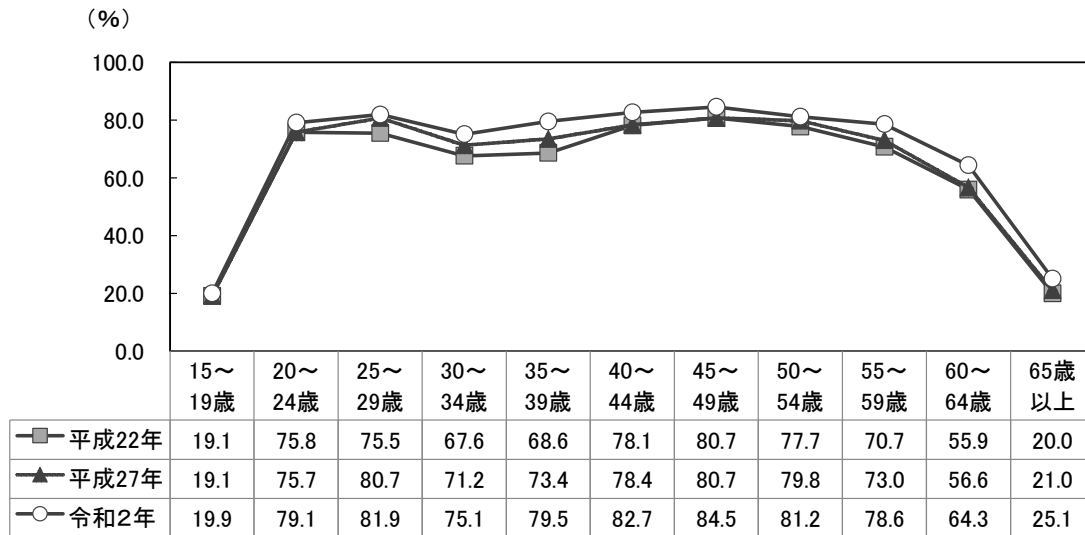
■産業分類別就業者数(女性)



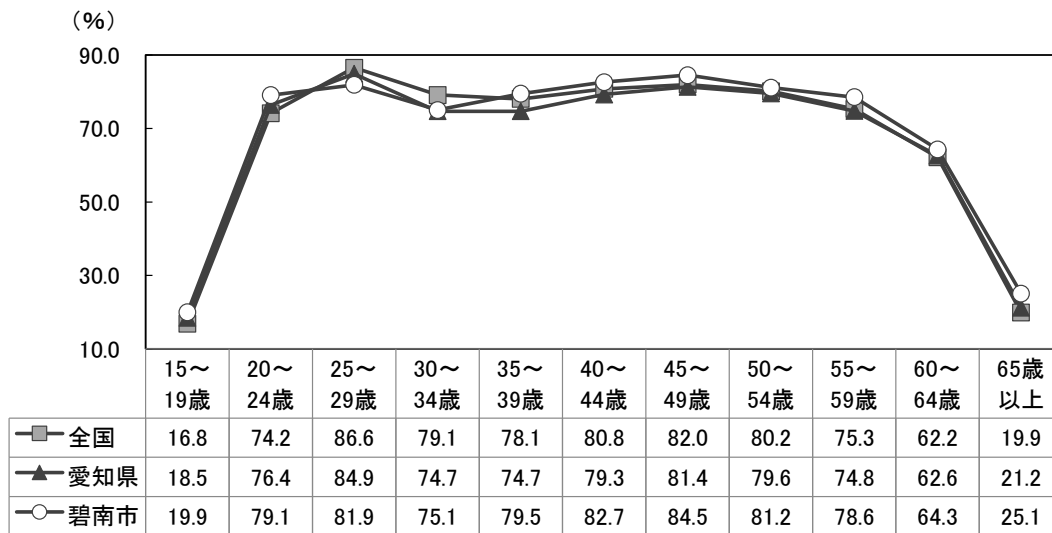
資料:国勢調査

女性の労働力率は、結婚・出産期に当たる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するという、いわゆるM字カーブを描くことが知られており、近年はM字の谷の部分の部分が浅くなってきている傾向があります。本市においては、女性の労働力率は年々高くなっており、全国や愛知県と比べると特に35歳以上で労働力率が高くなっています。

■女性の労働力率の推移



■女性の労働力率の推移(国・県と比較)



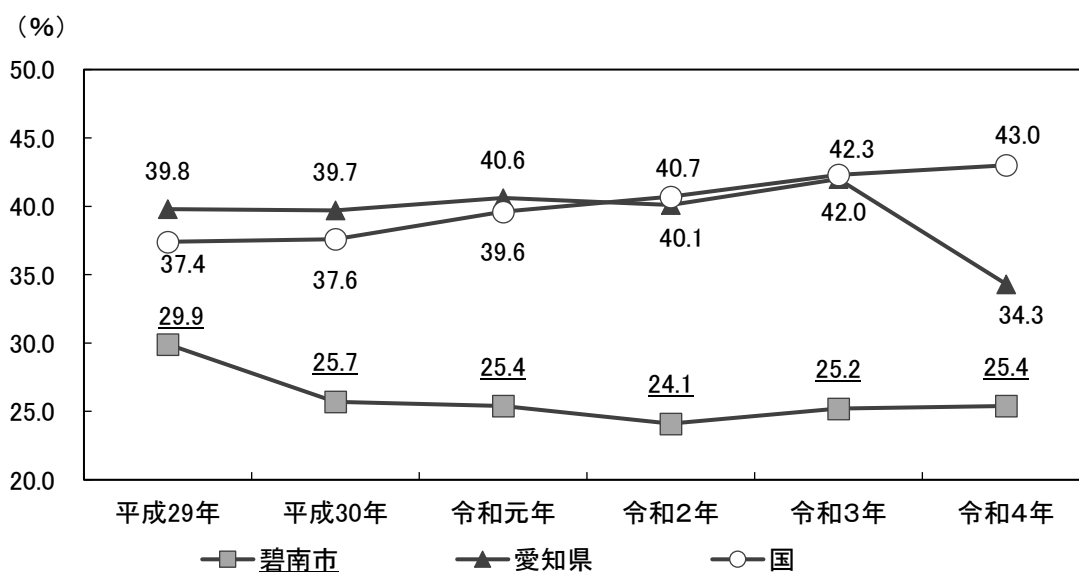
資料：国勢調査(令和2年)

(4)女性の参画の状況

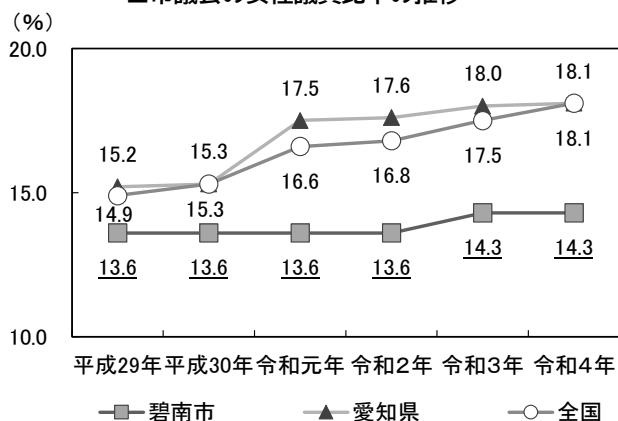
審議会等の女性委員比率をみると、国や県を下回って推移しています。国の女性委員比率が増加傾向にある一方で、碧南市は令和2年まで減少した後はやや増加傾向にあり、令和4年は25.4%と、委員の4人に1人が女性委員となっています。市議会における女性議員比率についても、国や県を下回って推移していますが、緩やかに増加しています。

また、市職員の女性管理職（課長級以上）比率については、令和元年に大きく減少したのちに令和2年に大きく増加しましたが、その後は減少傾向にあります。

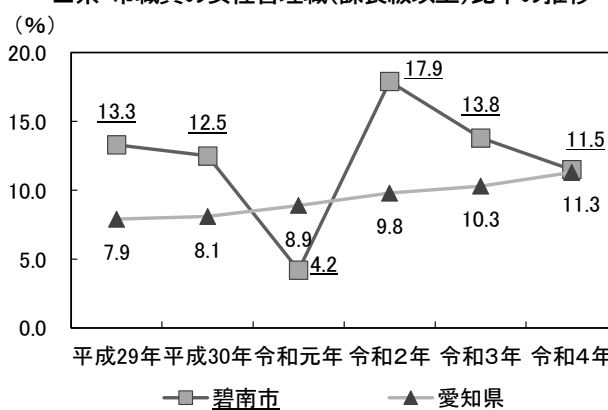
■審議会等の女性委員比率の推移



■市議会の女性議員比率の推移



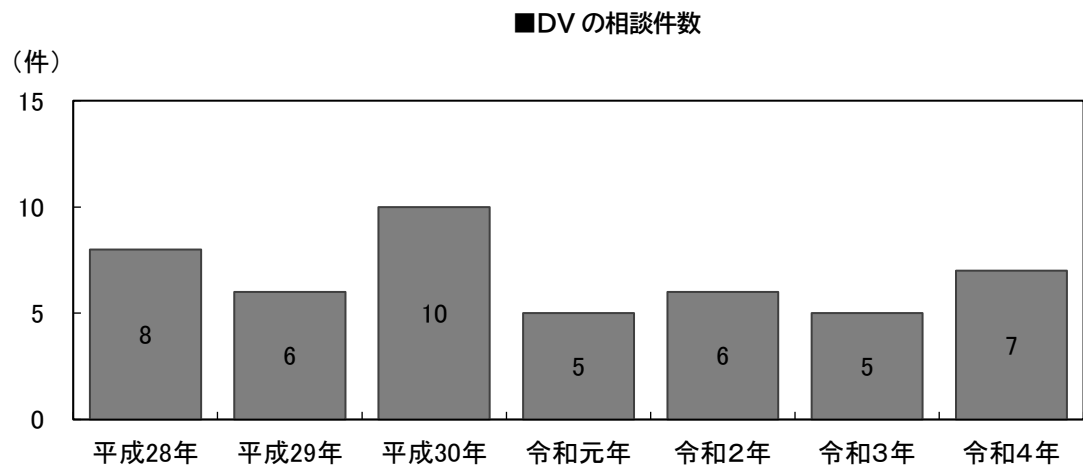
■県・市職員の女性管理職（課長級以上）比率の推移



資料：碧南市、内閣府「市区町村女性参画状況見える化マップ」、
「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況」など

(5)DV(ドメスティック・バイオレンス)の相談状況

DV（ドメスティック・バイオレンス）の相談件数は、5～10件の横ばいで推移しています。



資料:こども課

2 アンケート調査からみる碧南市の状況

(1)調査の実施概要

		市民	市職員
調査対象		無作為に抽出した 18歳以上の市民 2,000人	碧南市役所の職員
配布・回収方法		郵送配布、郵送・WEBによる回収	あいち電子申請・届出システムを利用し実施
調査基準日		令和5年5月1日	
調査期間		令和5年6月26日～7月14日	令和5年6月21日～7月7日
回収状況	配布数	2,000	1,000
	有効回答件数	626（うちWEB回答246）	427
	有効回収率	31.3%	42.7%

表記について

- アンケート結果概要における数字は、実際にその設問に回答した人の数を母数にした比率を表しています。
- 「n」は人数を表示しています。
- 比率は小数点第2位で四捨五入しているため、比率の合計は100.0%にならない場合があります。
- 回答を2つ以上選択できる複数回答では、比率の合計は100.0%を超えます。

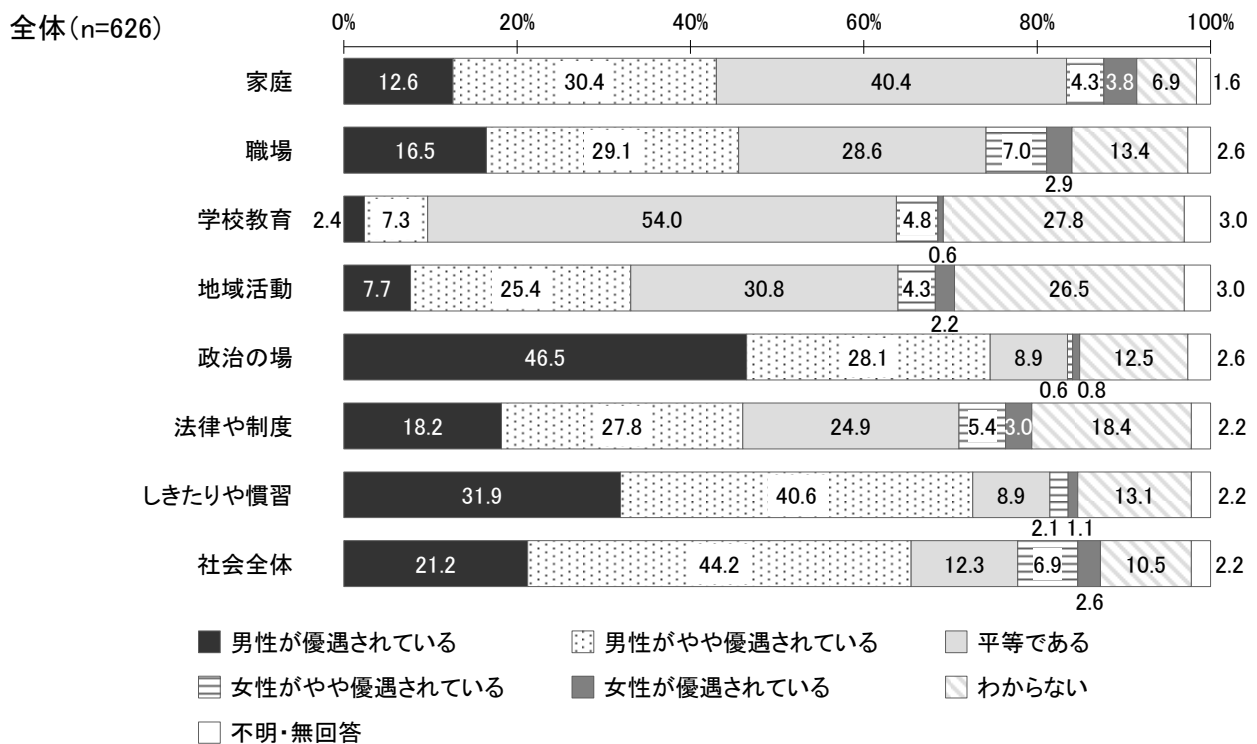
(2)調査の結果概要

①男女平等に関する意識について

各分野の男女平等に関する意識については、「学校教育」では「平等」と感じる割合が最も高い一方、その他の分野では「平等」と感じる割合が過半数を下回っています。特に、「政治の場」「しきたりや慣習」では『男性優遇』※とを感じる割合が高くなっています。

※『男性優遇』…「男性が優遇されている」と「男性がやや優遇されている」を合算
『女性優遇』…「女性が優遇されている」と「女性がやや優遇されている」を合算

■各分野での男女の平等感(市民)

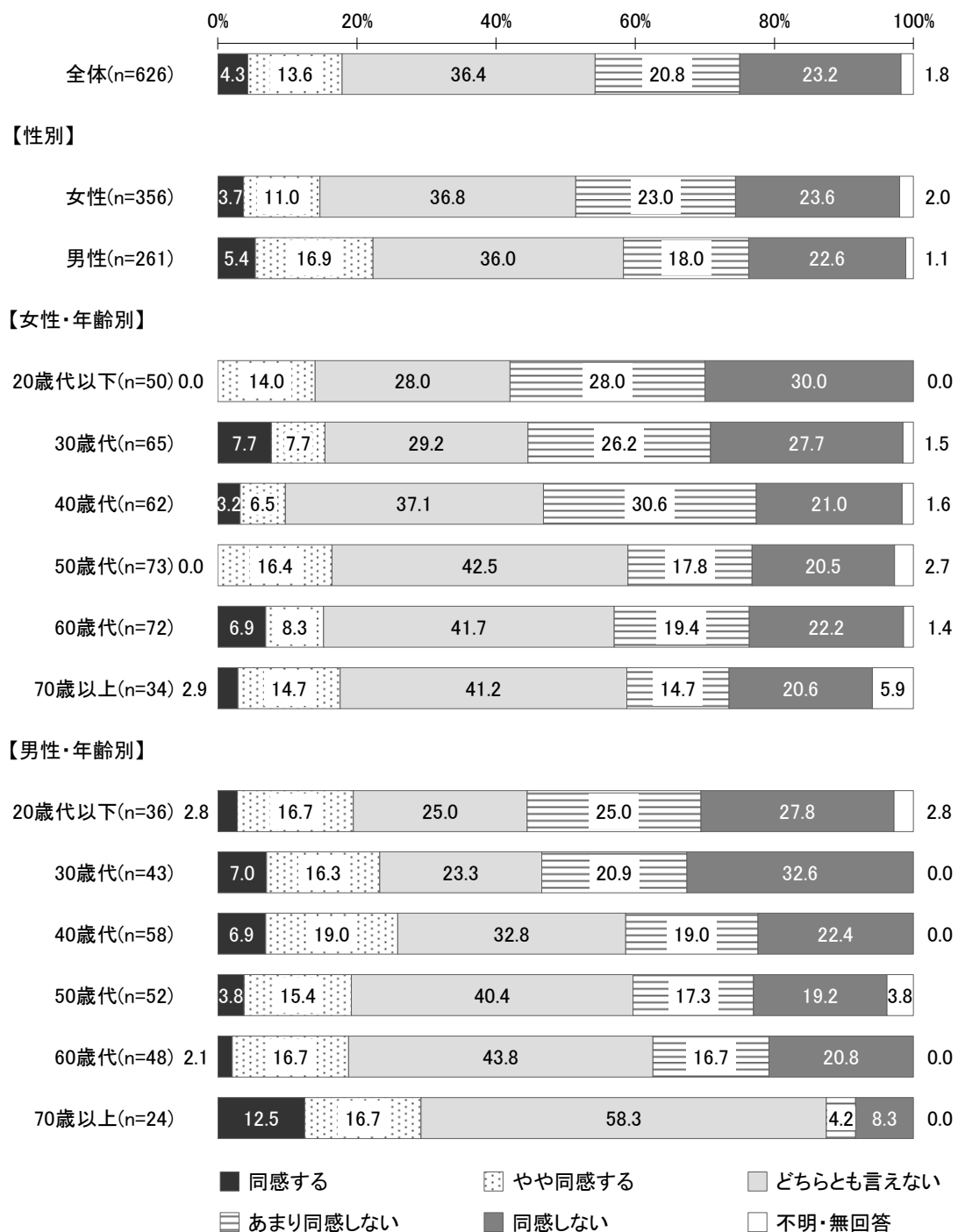


②固定的な性別役割分担意識について

男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよいという考え方については、男女ともに『同感する』よりも『同感しない』の割合が高くなっています。性別・年齢別では、男女ともに20歳代以下、30歳代は『同感しない』が5割台と高くなっています。

※『同感する』 … 「同感する」と「やや同感する」の合算
 『同感しない』 … 「あまり同感しない」と「同感しない」の合算

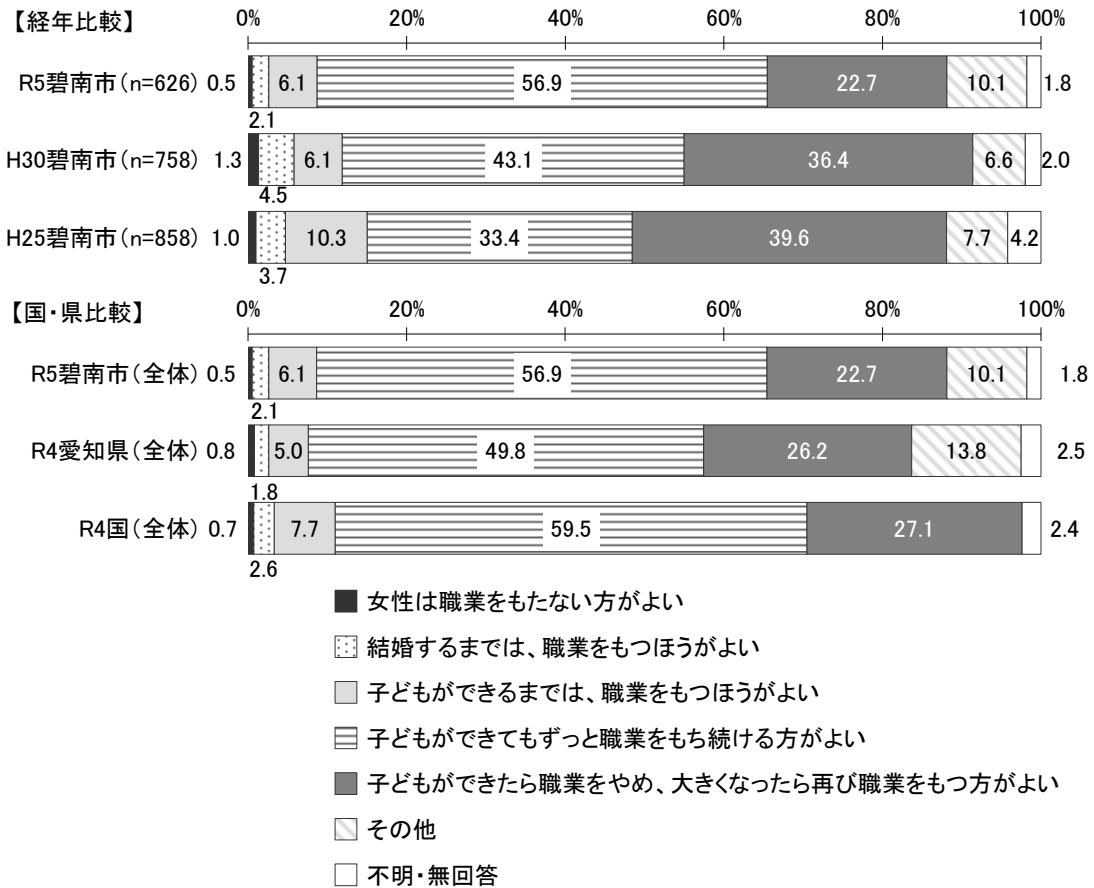
■男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよいという考え方についてどう考えるか(市民)



③女性が職業をもつことへの意識について

女性が職業をもつことについての考えは、「子どもができてもずっと職業をもち続ける方がよい」は、経年で比較すると、平成25年調査以降高くなっています。国、愛知県と比較すると、国と比べてやや低く、愛知県と比べてやや高くなっています。

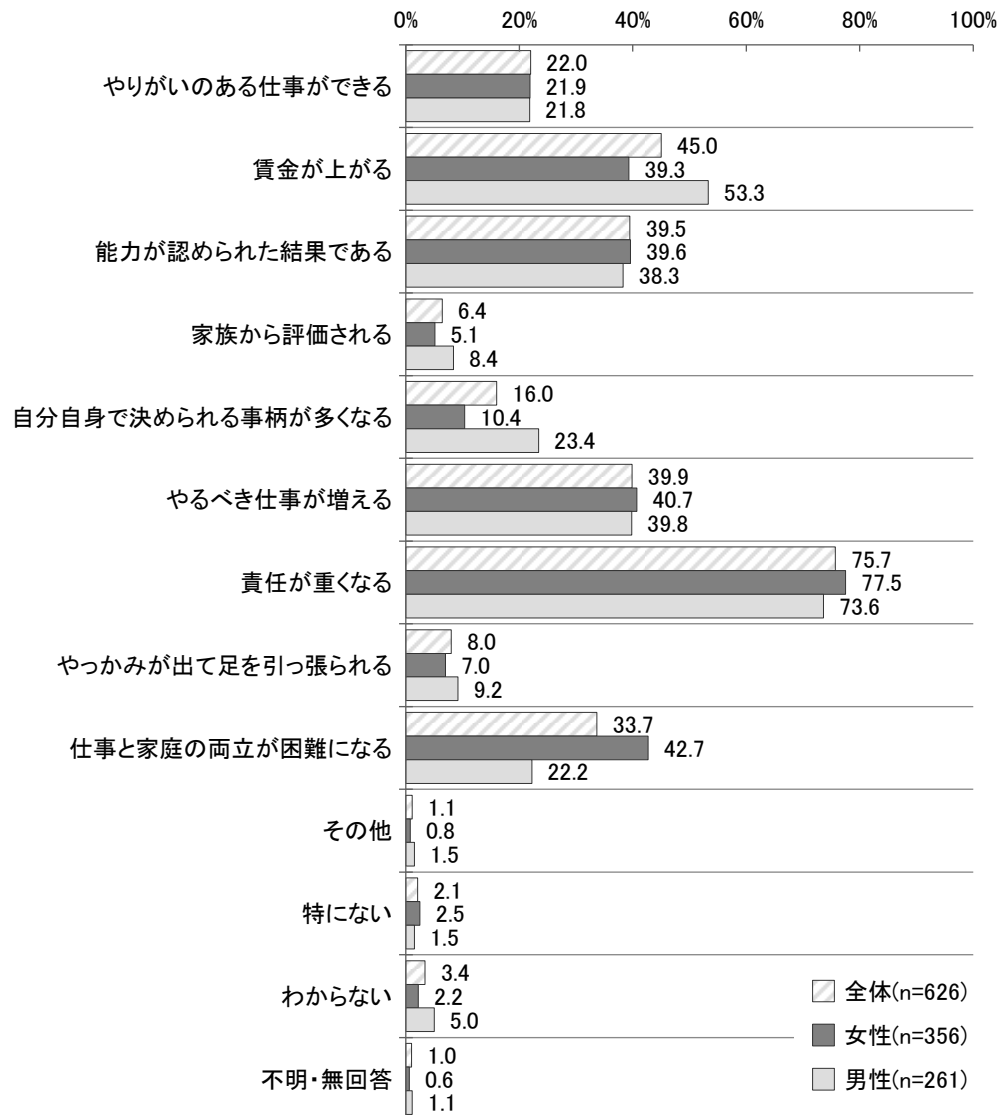
■女性が職業をもつことについての考え（市民）



④管理職についての意識

管理職以上に昇進することのイメージは、男女ともに「責任が重くなる」が最も高くなっています。性別では、女性で「仕事と家庭の両立が困難になる」が、男性と比べて高くなっています。

■管理職以上に昇進することのイメージ（市民）

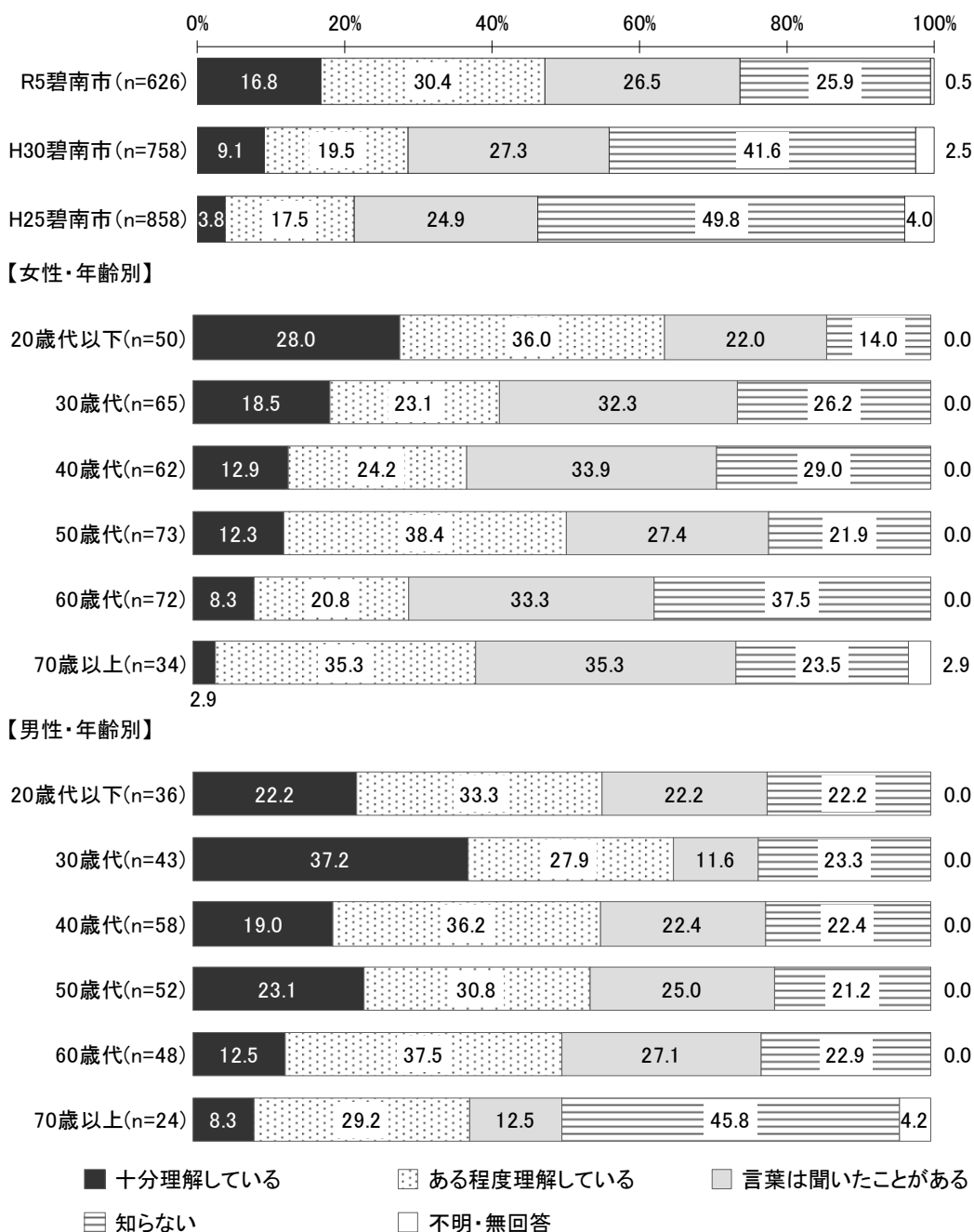


⑤ワーク・ライフ・バランスについて

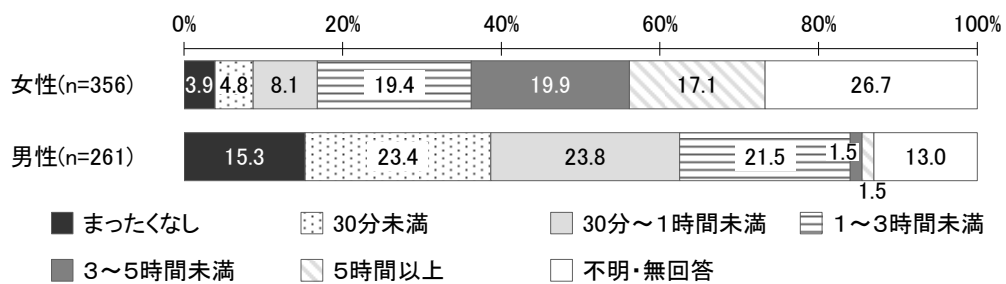
ワーク・ライフ・バランスの認知度について、経年で比較すると、「知らない」割合が低くなってきており、徐々に浸透してきていることがうかがえます。性別・年齢別では、女性の20歳代以下、男性の30歳代で『理解している』が6割を超えています。一方で、家事・育児・介護に関わる時間では、勤務日で、女性で「3～5時間未満」が、男性で「30分～1時間未満」が高くなっています。勤務日以外で、女性で「5時間以上」が、男性で「1～3時間未満」が高くなっています。いずれも男性より女性の家事・育児・介護に携わる時間が長いことがうかがえます。

※『理解している』…「十分理解している」と「ある程度理解している」の合算

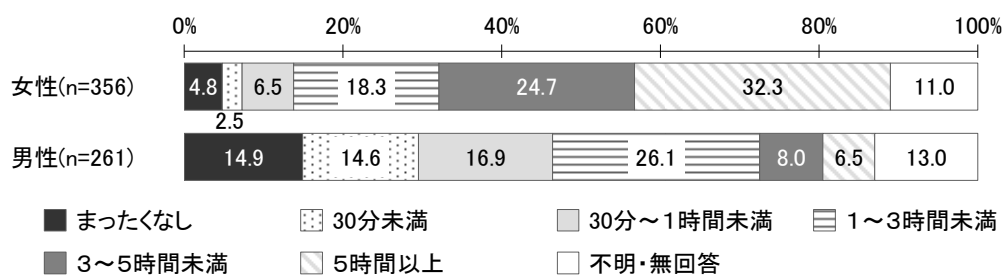
■ワーク・ライフ・バランスの認知度（市民）



■家事・育児・介護に関わる時間（勤務日／1日あたり）（市民）



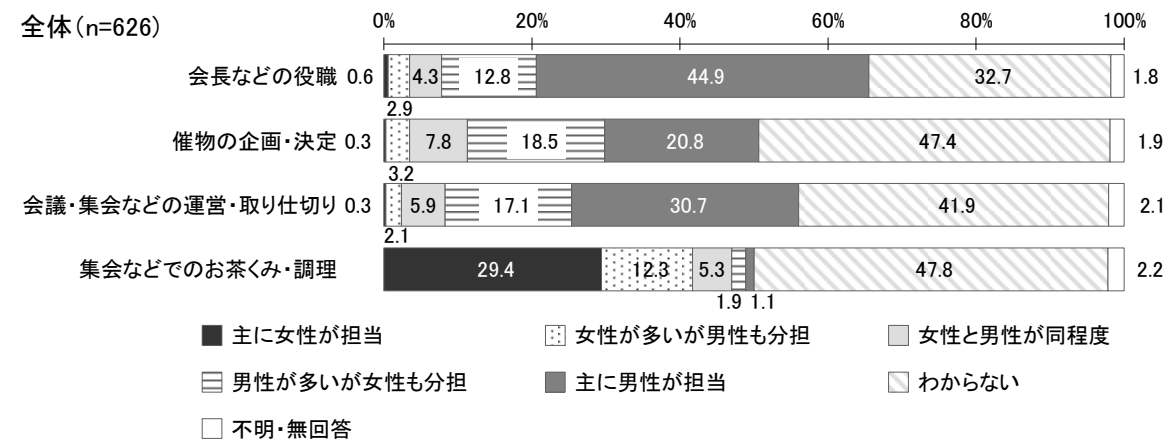
■家事・育児・介護に関わる時間（勤務日以外／1日あたり）（市民）



⑥地域活動について

地域活動の役割分担について、集会などでのお茶くみ・調理では「主に女性が担当」が高くなっています。会長などの役職、催物の企画・決定、会議・集会などの運営・取り仕切りでは「主に男性が担当」が高くなっています。

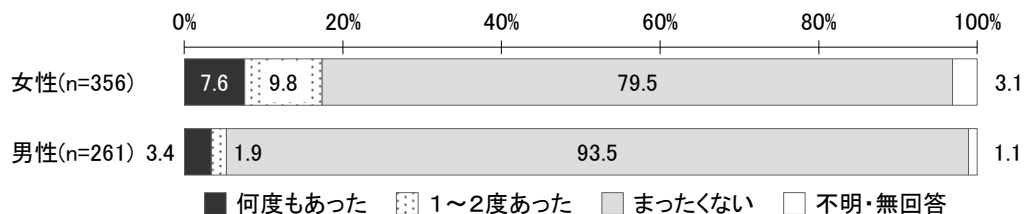
■地域における男女の役割分担について（市民）



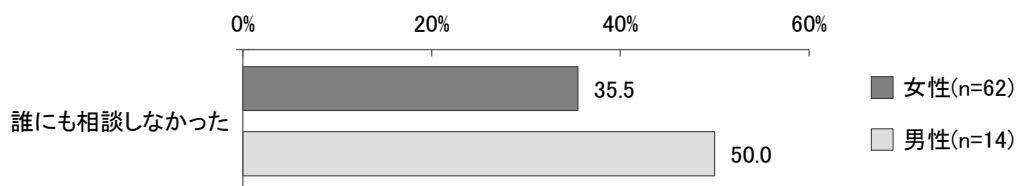
⑦DV（ドメスティック・バイオレンス）について

今までに、配偶者や恋人などからDVを受けたことがあるかについて、女性で「何度もあった」「1～2度あった」が男性と比べて高くなっています。DVを受けたことがある人で誰にも相談しなかった割合は男性で5割と女性に比べて高くなっており、男性では相談することに躊躇していることが多いと考えられます。

■DVの経験（市民）

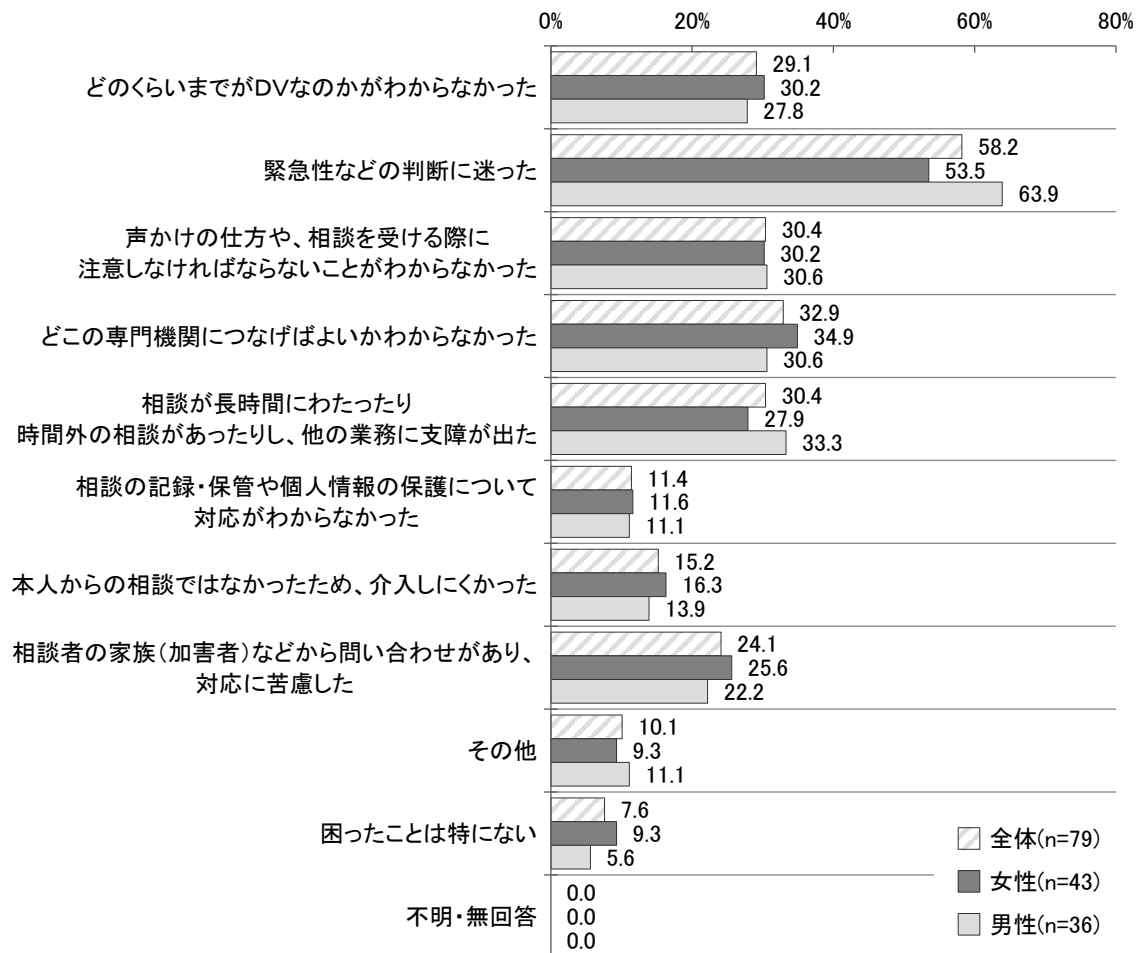


■DVを受けた人で誰にも相談しなかった割合（市民）



市職員でDVの事案に関わったことがある人で、DVの相談を受けた際に困ったことで、「緊急性などの判断に迷った」が最も高くなっています。また、「どこの専門機関につなげばよいかわからなかった」が約3割みられることから、情報共有等の連携体制の強化が必要です。

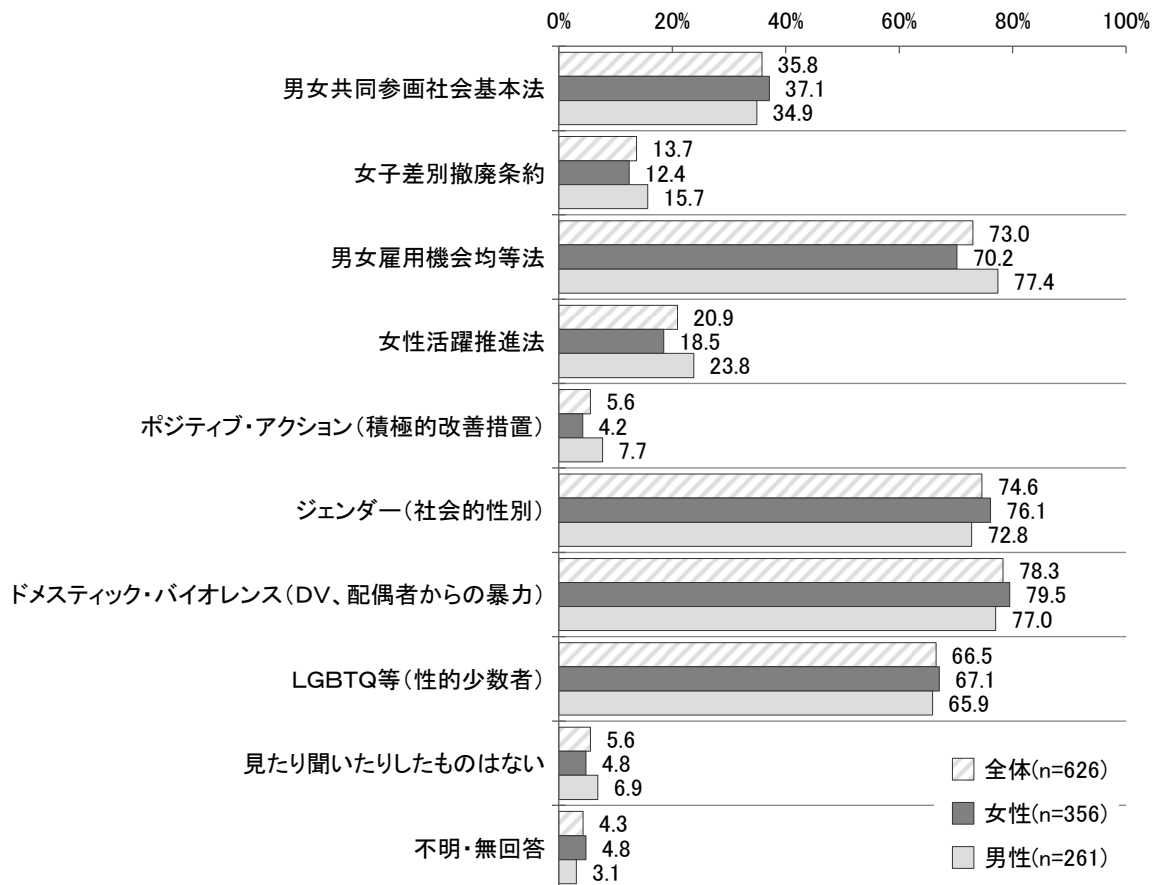
■DVの事案に関わったことがある人で、DVの相談を受けた際、困ったこと（市職員）



⑧男女共同参画全般について

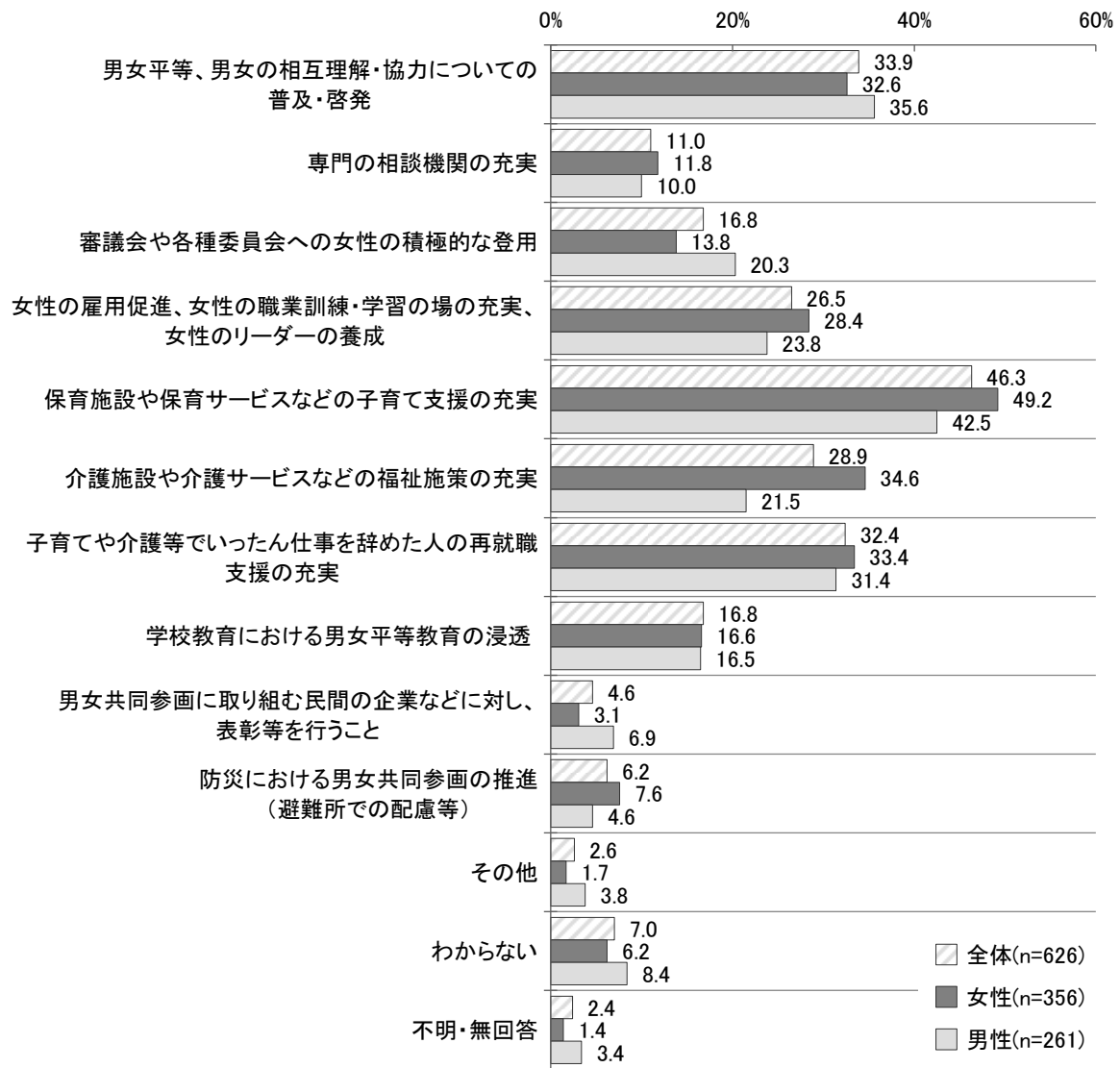
男女共同参画に関する言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものは「ドメスティック・バイオレンス（DV、配偶者からの暴力）」「ジェンダー（社会的性別）」「男女雇用機会均等法」「LGBTQ等（性的少数者）」の割合が高くなっており、これらの用語は浸透してきていると考えられます。

■男女共同参画に関する用語の認知度（市民）



男女共同参画社会を実現するために、市が特に力を入れるべきと思われることが、「保育施設や保育サービスなどの子育て支援の充実」が最も高くなっています。また、女性では「介護施設や介護サービスなど福祉施策の充実」も高くなっています。

■行政への要望（市民）



3 団体・事業所アンケート調査からみる碧南市の状況

(1)調査の実施概要

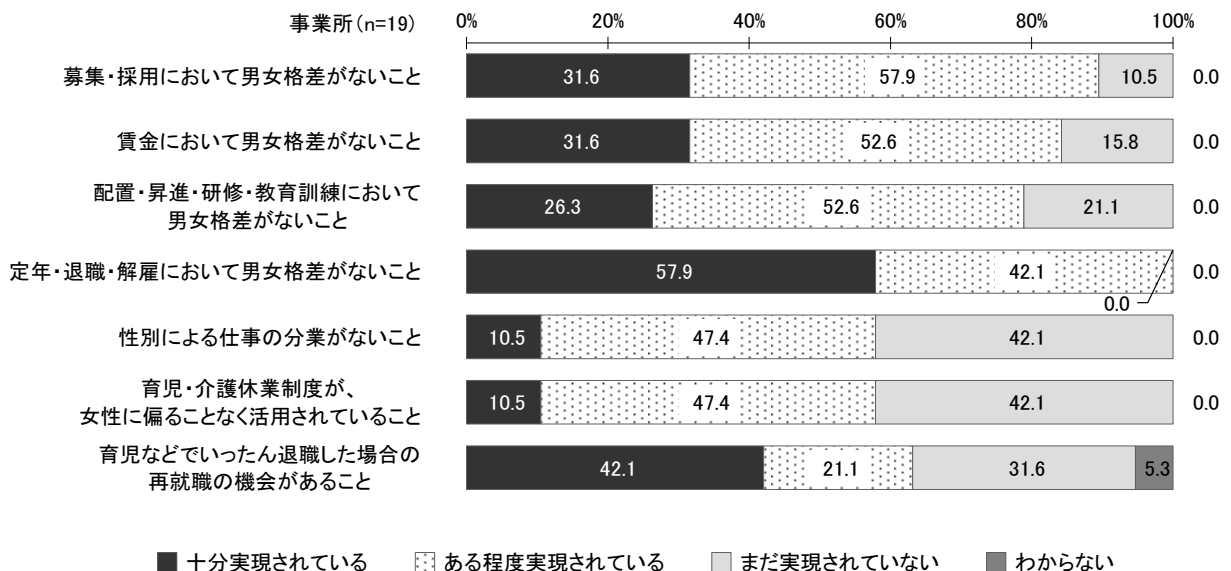
		団体	事業所
団体・事業者数		市内で活動する団体	市内に所在地を有する企業
配布・回収方法		郵送配布・郵送回収	
調査期間		令和5年6月27日～7月14日	
回収状況	配布数	5	25
	有効回答件数	5	19
	有効回収率	100%	76.0%

(2)調査の結果概要

①事業所における男女共同参画について（事業所）

事業所において、実現されている男女共同参画の取組については、「定年・退職・解雇において男女格差がないこと」が多く、一方で、まだ実現されていない取組として「性別による仕事の分業がないこと」「育児・介護休業制度が、女性に偏ることなく活用されていること」が多くなっています。

■事業所において実現されている取組

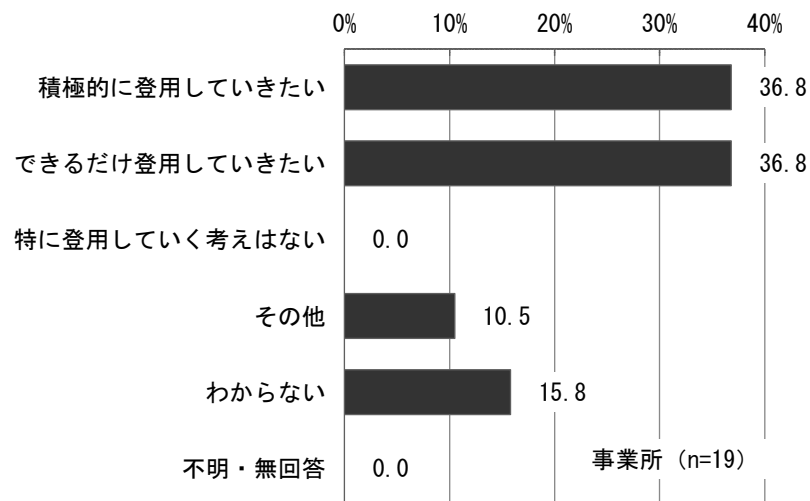


※選択肢「実現される必要はない」を除く

②女性の活躍について（事業所）

女性の管理職への登用意向では「積極的に登用していきたい」「できるだけ登用していきたい」が3割強となっています。

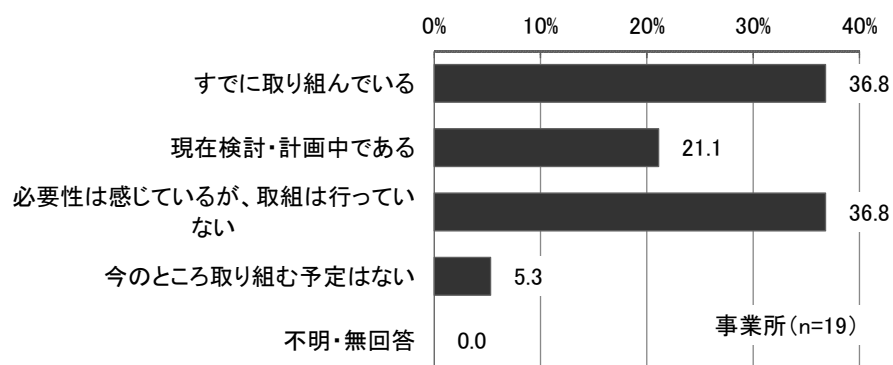
■女性の管理職への登用意向



③ワーク・ライフ・バランスについて（事業所）

従業員のワーク・ライフ・バランスを支援する取組について、「すでに取り組んでいる」事業所が3割強となっている一方、「必要性は感じているが、取組は行っていない」事業所も同程度みられます。

■従業員のワーク・ライフ・バランスを支援する取組について



④市への要望等（団体）

団体において、碧南市で今後さらに取り組む必要があると思うこと（整備した方がいい施策）については、5団体中3団体で「男女平等意識の促進」「家庭的責任をともに担うための環境の整備（各種制度の周知、男性の家事・育児への参加促進等）」と回答しています。

4 第2次プランの進捗状況

第2次プランの数値目標の達成状況は以下の通りとなっています。これらの評価を受けて、新たな成果目標と目標値を設定します。

重点目標Ⅰ 男女共同参画の意識づくりとその啓発

指標	策定時 H25年度	中間値 H30年度	目標値 H35年度	実績値	評価
固定的性別役割分担意識に『同感しない』市民の割合	35.8%	45.1%	50%	44.0% (R5)	未達成
しきたり、慣習において、男女平等であると感ずる市民の割合	16.7%	14.4%	30%	8.9% (R5)	未達成

重点目標Ⅱ あらゆる分野への社会参画の推進

指標	策定時 H25年度	中間値 H30年度	目標値 H35年度	実績値	評価
市の審議会等に占める女性委員の割合	20.1%	25.7%	35%	25.4% (R4)	未達成
市職員(市民病院の医療・看護職を除く)の管理職(課長補佐級以上)に占める女性の割合	19.3%	12.5%	25%	17.0% (R5)	未達成
防災リーダー養成講座修了者に占める女性の割合	38.7%	37.9%	50%	40.0% (R5) ※	未達成

※令和4年度までの修了者数割合

重点目標Ⅲ 多様な生き方を可能にする環境づくり

指標	策定時 H25年度	中間値 H30年度	目標値 H35年度	実績値	評価
「ワーク・ライフ・バランス」の認知度	46.2%	55.9%	70%	73.7% (R5)	達成
パパママ教室への参加率	5.9% (H24)	5.5% (H29)	10%	5.9% (R4)	未達成
市男性職員の出産・育児休暇等の取得率	45.0%	80.0%	75%	100% (R4)	達成
碧南市における愛知県ファミリー・フレンドリー企業登録数	15社	18社	25社	15社 (R5)	未達成

重点目標Ⅳ 人権を尊重し、安心して健康に暮らせる社会づくり

指標	策定時 H25 年度	中間値 H30 年度	目標値 H35 年度	実績値	達成
DVに関する相談窓口の認知度	52.7% ※1	40.6% ※2	70%	60.4% ※3	未達成
子宮頸がん検診受診率	24.9% (H24)	20.5% (H29)	30% 以上	12.2% (R4) ※4	集計方法変更のため 判定不能
乳がん検診受診率	19.5% (H24)	16.5% (H29)	30% 以上	9.6% (R4) ※4	

※1 (H20 愛知県調査結果値)

※2 (H28 愛知県調査結果値)

※3 (R4 愛知県調査結果値)

※4 愛知県がん検診結果報告等調査結果 (隔年受診率)

5 課題の総括

1 男女共同参画の意識づくりとその啓発

市民アンケート調査結果によると、「男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい」といった固定的な性別役割分担意識は年々解消しつつあります。一方で男女の間の平等感は依然として高まっていない状況です。特に政治、しきたりや慣習の分野では男性優遇が顕著となっています。

家庭や地域、職場などあらゆる場面において、男女共同参画社会を実現していくためには、市民一人ひとりの意識の変容と行動につなげていくことが重要であり、情報発信、学習機会の提供を一層進める必要があります。

2 あらゆる分野への社会参画の推進

本市の審議会等における女性委員比率は、横ばいで推移しており、市議会における女性議員比率は、ゆるやかに増加しているものの、いずれも国及び愛知県を下回っており、より一層の女性の登用への取組が必要です。

市民アンケート調査結果によると、地域活動では、会長などの役職等の意思決定の役割は主に男性が担当し、補助的な役割は女性が担当している状況がみられ、地域活動において女性の視点が反映されにくいと推測されます。また、管理職以上に昇進することについて「仕事と家庭の両立が困難になる」の項目に男女間に差があり、女性に家事や育児等の負担が偏っていると推測されます。男性の家事・育児等の参画を進めるとともに、地域活動や企業管理職等での女性の参画を促進する必要があります。

3 多様な生き方を可能にする環境づくり

市民アンケート調査結果によると、ワーク・ライフ・バランスの用語の認知度は高まってきている一方で、家事・育児・介護に関わる時間は男性より女性が長いことから、実際の生活での固定的な性別役割分担が依然として残っていることがうかがえます。事業所アンケート調査結果でも、育児・介護休業制度については男性の利用が進んでいない状況です。男性の家事・育児・介護の参画促進について一層の取組が求められます。

4 人権を尊重し、安心して健康に暮らせる社会づくり

DVの相談件数は横ばいで推移していますが、市民アンケート調査では、DVを経験した人は女性で2割弱となっており、さらにそのうち相談につながっていない人もみられます。市職員アンケートでも、相談を受けた際の連携体制や対応方法について、市職員に浸透していないことがうかがえます。相談窓口の周知を進めるとともに、DV被害を確認した際に、関係機関等において適切な支援につなげられるよう、体制の強化が必要です。